



二次元バーコードは製造用コードです。

ダイキンルームエアコン<アメニティビルトイン形>  
**据 付 説 明 書**

S28~50NLV用  
 C28~50NLV用  
 C28~50NLWV用

目 次

- 安全上のご注意 ..... P.2
- 据付場所の選定 ..... P.2
- 付属部品 ..... P.3
- 室内ユニットの据付部材 ..... P.3
- 現地調達部材 ..... P.3
- 室内外ユニット据付図 ..... P.4
- 室内ユニットの据付けパターン ..... P.5
- 室内ユニットの据付け① ..... P.6~12
  - パターンAの場合 ..... P.6
  - パターンBの場合 ..... P.7
  - パターンC・Gの場合 ..... P.8~9
  - パターンD・E・Hの場合 ..... P.10~11
  - パターンJの場合 ..... P.12
- 室内ユニットの据付け② ..... P.13
  - ① ドレン配管工事 ..... P.13
  - ② 接続配管の仕上げ ..... P.13
  - ③ 配線工事 ..... P.13
- 室外ユニットの据付け ..... P.13~14
  - ① 室外ユニットの据付け ..... P.13
  - ② 冷媒配管の接続 ..... P.13
  - ③ エアページとガス漏れ確認 ..... P.13
  - ④ 配線工事 ..... P.13
  - ⑤ 試運転 ..... P.13
- ディップスイッチの設定方法と使いかた ..... P.15
- 同じ部屋に2台設置・薄型リモコン・HAシステムと接続する場合 ..... P.15
- 調湿・換気ユニットを接続する場合 ..... P.16
- アース工事 ..... P.16
- 試運転と確認 ..... P.16

- 据付工事前にお読みになり正しく据え付けてください。
- お客様に取扱方法を取扱説明書でよく説明してください。

■フロンについて



家庭用エアコンには最大でCO<sub>2</sub> (温暖化ガス) 3,600kg (マルチシステムの場合は10,500kg) に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。




この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを、注意喚起するための表示です。

# 安全上のご注意

- 据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。  
ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。


 <b>警告</b>	誤った据付けにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 <b>注意</b>	誤った据付けにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
---	--	---	--

- 本文中に使われる「[給表示]」の意味は次の通りです。

 <b>指示を守る</b>	 <b>アース線接続</b>	 <b>禁止</b>
--	---	---

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

 <b>警告</b>	
●据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 お客様ご自身で据え付けられ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。	●室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーまたは右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。 カバーの取付けが不完全な場合、端子部の発熱や感電、火災の原因になります。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。	●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。 空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
●設置工事は、必ず付属品および指定の部品を使用する。 指定部品を使用しないと、ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因になります。	●指定冷媒(R410A)以外は使用しない。 機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。
●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度不足や取付けが不完全な場合、ユニットの落下により、けがの原因になります。	●ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
●電気工事は、電気工士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると、火災や感電の原因になります。	●据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。 冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
●据付工事は、必ず電源を切って行う。 電源を入れたまま電気部品に触れると感電の原因になります。	●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
●アース工事は確実に行う。 アース線は、ガス管や水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 アースが不完全な場合、感電や火災の原因になります。	●設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーターやコンロ、ストーブなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
●漏電しゃ断器を取り付ける。 漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になります。	●配管・フレアナット・工具は指定冷媒(R410A)専用のものを使用する。 既存冷媒(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
●配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。 施工不備があると、発熱や感電、火災の原因になります。	●可燃性のもの(ハスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。 ひび割れや感電、引火の原因になります。
●室内外ユニット間および電源の配線は、所定の電線を使い確実に接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。 接続や固定が不完全な場合、発熱や感電、火災の原因になります。	

 <b>注意</b>	
●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない。 万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまると、発火の原因になります。	●室内外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない。 けがの原因になることがあります。
●ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合は屋内に浸水し、家財などをぬらす原因になることがあります。	●フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。 フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
●室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。 鋭利な板金によりけがの原因になることがあります。	●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

# 据付場所の選定

- 据付場所は、お客様の同意を得て決定してください。

## 室内ユニット

- 室内ユニットの据付け**で示す据付制約が守れる所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
- 直射日光のあたらない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 機械油などの油の蒸気が発生しない所。  
(室内ユニットの寿命が短くなる場合があります。)
- 冷(温)風が部屋全体に行きわたる所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラビッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。  
(リモコンの受信距離が短くなる場合があります。)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。  
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります。)
- 室内ユニットの重量に耐える強度のある所。  
(据付けには、吊りボルトを使います。据え付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われる場合は桁などで補強したうえで、吊りボルトを設置してください。)
- 天井下面が著しく傾いていない所。
- 据付け上、サービス上の作業スペースが確保できる所。
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。

## 室外ユニット

- 室内外ユニット据付図**の**室外ユニットの据付所要スペース**で示す据付制約が守れる所。
- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。  
(降雪地では、雪でふさがれない所。)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない所。
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けない所。  
(ファンが高速で逆回転し、破壊するおそれがあるため。)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所では、室外ユニットの寿命が短くなる場合があります。
- 連転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。  
(特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および都道府県の条例などを満足すること。)
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。

## リモコン

- 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させ、リモコンの信号を室内ユニットが受信できる位置に取り付けてください。

# 付 属 部 品

室内ユニット						
④ワイヤレスリモコン 1個	⑤リモコンホルダー 1個	⑥乾電池単4 2本	⑦本体吊金具 4個	⑧断熱筒 1本	⑨断熱材 1枚	⑩断熱材 1枚
⑪シール材 3枚	⑫ドレンホース 1本	⑬異径継手 1個	⑭接着剤 1個	⑮結束バンド 6個	⑯タッピングネジ M4×12L 4本	⑰リモコンホルダー 取付ネジ M3×20L 2本
⑱取扱説明書 ⑲据付説明書 ⑳保証書 各1部	室外ユニット		㉑ドレンソケット 1個	●システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、 マルチ室外ユニットに付属の据付説明書を確認してください。		

# 室内ユニットの据付部材

パターンA~Jについては **室内ユニットの据付けパターン** を参照してください。

品 名	設置パターン	A・B	C・D	E	G・H	J
前面グリル<スイング付> 和風		KDG939A11	—	—	—	—
前面グリル<スイング付> 洋風		KDG939A11-W	—	—	—	—
前面グリル<スイング無> 和風		—	KDG939A20	KDG939A20	KDG939A30	—
前面グリル<スイング無> 洋風		—	KDG939A20-W	KDG939A20-W	KDG939A30-W	—
据付枠		KKF939A10	KKF939A20(B)	KKF939A20(B)	KKF939A30(B)	—
本体吹出ダクト		KDJ939A41	KDJ939A41	KDJ939A41	KDJ939A41	—
本体吸込チャンバ		KDD939A41	—	—	—	—
下吸込グリル(フルパネル) ホワイト		—	—	—	—	BCL50C-W ※1
天埋据付キット		—	—	—	—	KDH939B4
背面吸込チャンバ		—	—	—	—	KDD939A42 ※2
キャンバスダクト		—	—	—	—	KJCL50B
下吸込フィルターチャンバユニット		—	—	—	—	KJFL50B ※2
ダクト接続アダプター(吹出用)		—	—	—	—	KJFA939A41
分岐チャンバ		—	—	—	—	KDDT15A12
分岐チャンバ		—	—	—	—	KDDT20A12
ダクト吹出チャンバ(吹出用)		—	—	—	—	KDC939A43
2方向横吹出しチャンバ		—	—	—	—	KJFD939A41
マルチ分岐チャンバ(給気用)		—	—	—	—	KDDM939A4
天井吹出チャンバ(φ125mm用)		—	—	—	—	KDTC939A131
天井吹出チャンバ(φ150mm用)		—	—	—	—	KDTC939A13
天井吹出グリル		—	—	—	—	KDTG939A13(W)
横吹出チャンバ(150×100用)		—	—	—	—	KDKC939B21
横吹出グリル(150×100用)		—	—	—	—	KDKG939A21(W)
横吹出チャンバ(200×100用)		—	—	—	—	KDKC939B22
横吹出グリル(200×100用)		—	—	—	—	KDKG939A22(W)
横吹出チャンバ(300×100用)		—	—	—	—	KDKC939B23
横吹出グリル(300×100用)		—	—	—	—	KDKG939A23(W)
横吹出チャンバ(400×100用)		—	—	—	—	KDKC939B24
横吹出グリル(400×100用)		—	—	—	—	KDKG939A24(W)
ドレンアップキット		—	KDU939A41	KDU939A41	KDU939A41	KDU939A41
薄形リモコン		KRC939A1	KRC939A1	KRC939A1	KRC939A1	KRC939A1
リモコンコード(3m・8m・12m・20m)		KRCW101A03-08-12-20	KRCW101A03-08-12-20	KRCW101A03-08-12-20	KRCW101A03-08-12-20	KRCW101A03-08-12-20

※1. 本体下吸込の場合に使用します。 ※2. 背面ダクト吸込の場合に使用します。

# 現地調達部材

品 名	仕 様
ドレン配管(硬質塩ビパイプ)	VP16(外径φ22mm)またはVP20(外径φ26mm)その他必要に応じてソケット、エルボなど
着 剤	塩ビ系接着剤
断 熱 材	配管断熱用、ドレン配管断熱用それぞれ10mm以上の発泡ポリエチレン
内 外 連 絡 電 線	VVFケーブル(φ1.6mm-3芯、φ2.0mm-3芯 いずれか)
冷 媒 配 管	<b>室外ユニットの据付け②</b> <b>冷媒配管工事について</b> を参照してください。

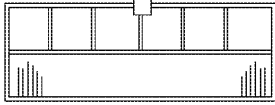
# 室内外ユニット据付図

- 真空ポンプを使用しエアバージを行ってください。
- 移設をする場合は、必ずポンプダウンを行い、室外ユニットへ冷媒を回収してください。
- 室内ユニットは前後左右の傾きに注意してください。
- 室内ユニットの据付所要スペースは**室内ユニットの据付け①**の各ページをご覧ください。
- 本図はセパレート形を示しています。
- システムマルチの場合**、配管長・高低差・据付寸法などはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合**、配管長・高低差・据付寸法などはBPユニットに付属の据付説明書に従ってください。

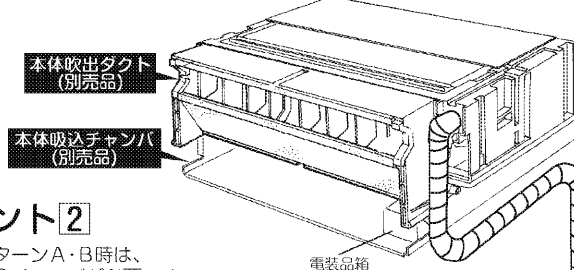
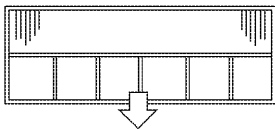
## ポイント①

- 据付パターンA・B・C・D・E・G・H時は、本体吹出ダクトが必要です。
- 据付パターンに応じて本体吹出ダクトの向きが変わります。

<下設置時>



<上設置時>



①本体吊金具

## ポイント④

- 据付パターンJ時、付属品の他に天井据付キット(別売品)が必要です。

壁貫通穴のすき間はパテ埋めをしてください。

仕上げテープを巻くときは下から上へ巻いてください。

## ポイント②

- 据付パターンA・B時は、本体吸込チャンバが必要です。(詳細は**室内ユニットの据付けパターン**を参照)

## ポイント③

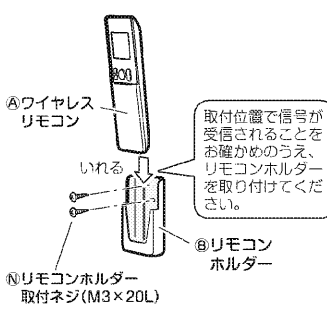
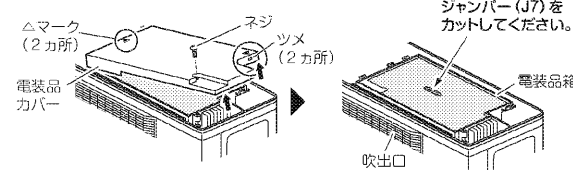
- 据付パターンにより、電装品箱取付位置が異なります。(詳細は**室内ユニットの据付けパターン**を参照)

	最大許容長さ	最大許容高さ
2.8kW、3.6kWクラス	25m以内	15m以内
4.0kW、5.0kWクラス	30m以内	20m以内

- 連絡配管が15mを超える場合は冷媒追加していただく。配管1m当たりの充てん量：20g/m  
また、室外ユニットの電装品にあるジャンパー(J7)をカットしてください。

### 【ジャンパー(J7)の位置】

- 電装品カバーの外しかた  
△マーク2カ所のツメを外した後、図のように傾けて電装品カバーを取り外してください。

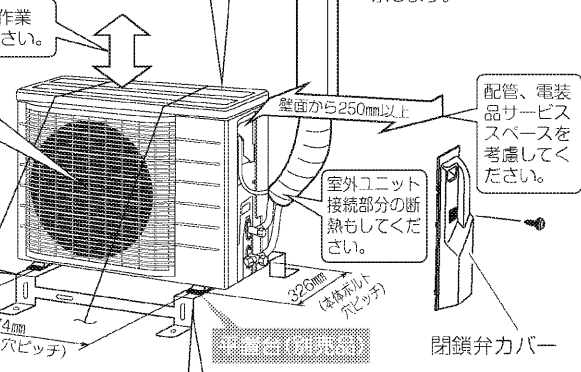


- 室外ユニットの壁置きなどの据付けで振動が大きいときは、室外防振ゴム別売品(KKSR921A4)を使用してください。

天井面から300mm以上の作業スペースを考慮してください。

吹出側正面から強風が吹き付け、ファンが破損するおそれがある場合は、室外ユニット吹出側の向きを変更するか、風向調整板(別売品)を使用してください。

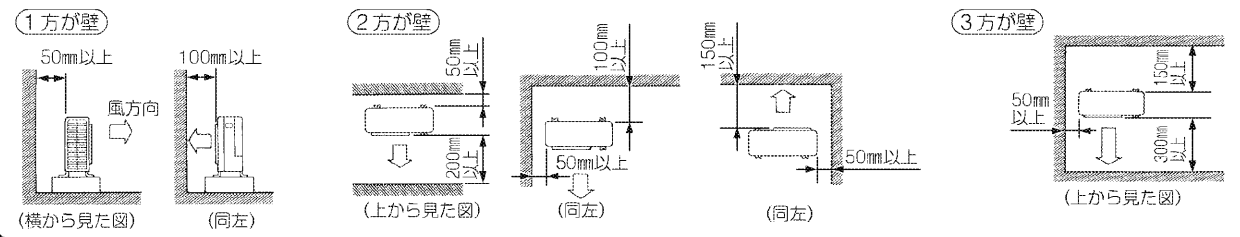
水はけの悪い場所では平臺台(または樹脂製置台)の上に置いてください。室外ユニットは水平位置に据え付けてください。水漏れ、水たまりの原因となります。



転倒や落下のおそれがある場所は、基礎ボルトやブロックバンド(別売品)または針金などで本体を固定してください。

### 室外ユニットの据付所要スペース

- システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 室外ユニットの吸込口、および吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据え付けする場合は、下記パターンに従ってください。いずれの据付パターンでも、吹出側壁面高さは1.2m以下としてください。

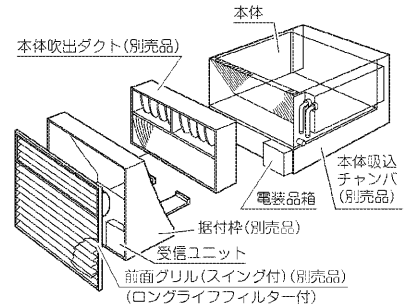


# 室内ユニットの据付けパターン

## 吸込・吹出一体設置タイプ(半間幅用)

**パターン A**  
(下部吸込み・上部吹き出し)  
地袋などお部屋の下部に設置の場合。

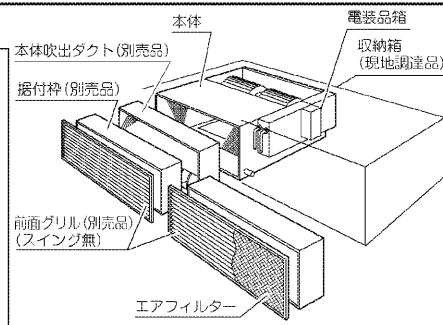
**パターン B**  
(上部吸込み・下部吹き出し)  
天袋などお部屋の上部に設置の場合。



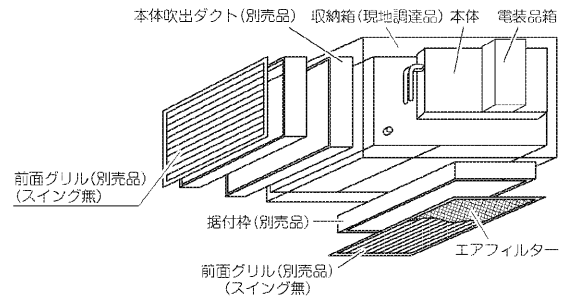
## 吸込・吹出分離設置タイプ

**パターン C**  
一間幅地袋 (分離グリル) 設置の場合。

**パターン D**  
一間幅天袋 (分離グリル) 設置の場合。



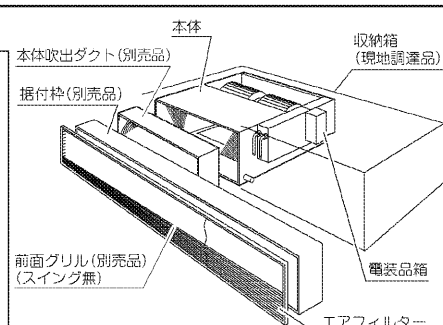
**パターン E**  
下り天井設置の場合。



## 吸込・吹出一体設置タイプ(一間幅用)

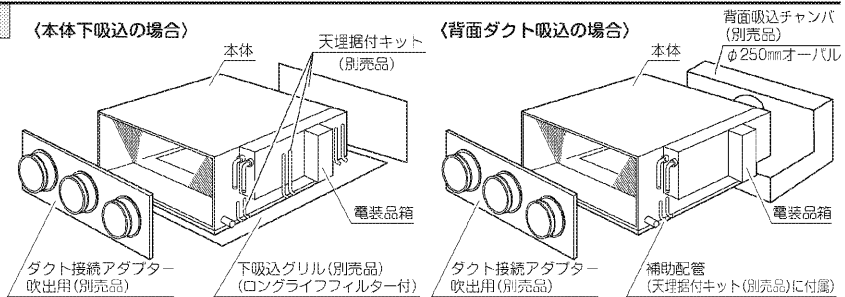
**パターン G**  
一間幅地袋 (一体グリル) 設置の場合。

**パターン H**  
一間幅天袋 (一体グリル) 設置の場合。



## 天井埋込カセットビルトイン設置

**パターン J**  
天井埋込設置の場合。

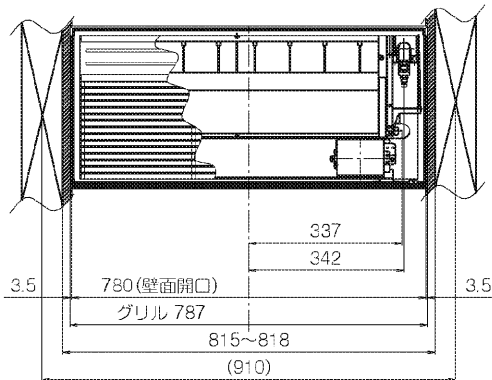


注1) マルチの場合、受光ユニットを必ず下吸込フィルターチャンバユニット(KJFL50B)に取り付けるため、ダクト長さは1.5m以下にしてください。  
注2) マルチでダクト接続する場合、室温検知を確実にするため受光ユニットを吸込グリルに取り付けてください。また、下吸込フィルターチャンバユニット(KJFL50B)の場合、ワイヤードリモコンの接続をおすすめします。

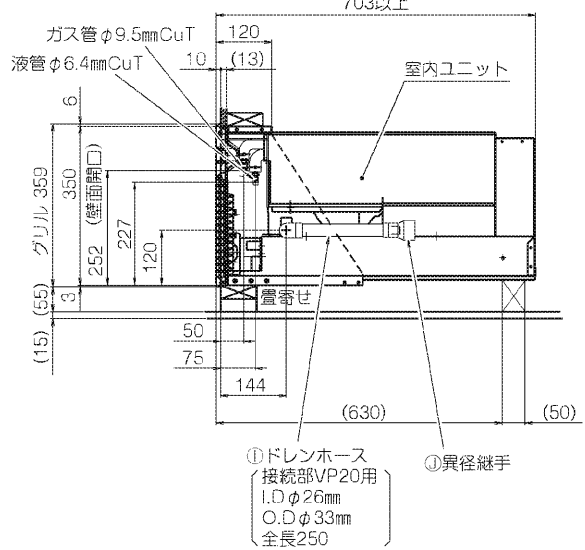
# 室内ユニットの据付け①<パターンA>

## 1 冷媒・ドレン配管の準備

※各設置パターンに応じて、本体を設置する前にあらかじめ、冷媒配管・ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。



(単位：mm)

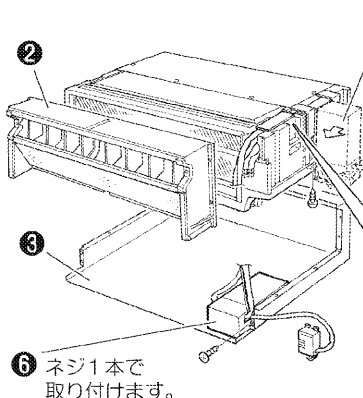


☒支柱：現地調達品  
( )寸法：参考寸法

## 2 本体据付け前の準備

※各別売品のくわしい組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書をご覧ください。

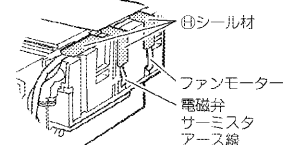
作業内容	パターンA
① 天板の付け替え	不要
② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け	必要
③ 本体吸込チャンバ(別売品)の取付け	
④ 電装品箱の取外し	設定SW切換
⑤ 設置パターンの設定	
⑥ 電装品箱の取付け	本体吸込チャンバへ
⑦ リード線を本体溝へ収納	必要
⑧ シール材の貼付け	前面グリルの化粧板へ
⑨ 受信ユニットの取付け	
⑩ 結束バンドによるリード線固定	不要



④ ネジ1本を外し、矢印側へスライドさせます。このとき、リード線を固定している結束バンド(4カ所)を切断して作業してください。(電装品箱に残った結束バンドの切端はきれいに抜き取ってください。)

⑦ リード線4本を本体出口側から、たるまないように溝に押し込んでいきます。リード線の余った部分は配管側でたるませてください。

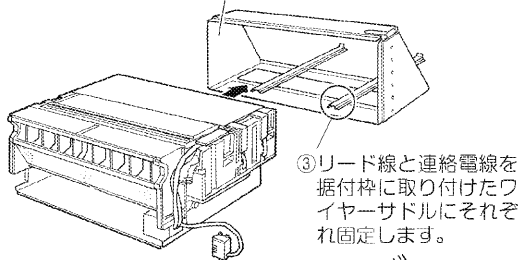
⑧ 各リード線を⑧シール材で固定します。



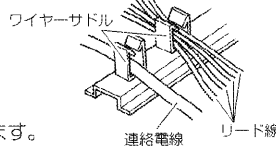
⑨ 受信ユニットの取付方法は、前面グリルの据付取扱説明書をご覧ください。

## 3 室内ユニットの据付け

① 据付枠(別売品)を取り付けます。



※連絡電線の接続については、**室内ユニットの据付け②** [3]配線工事をご覧ください。

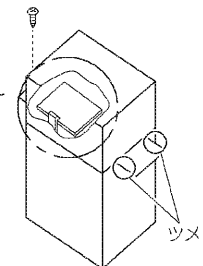
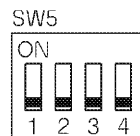


② 室内ユニットを据付枠に収納します。このとき、据付枠と躯体の間にすき間が生じる場合はシールして、壁裏などからの暖・冷気の侵入を防止してください。(シール材は現地調達品)

●別売の光触媒フィルター(本体吸込チャンバに取付可能)の取付けの詳細は、キットに同梱の取付説明書をご覧ください。

## 5 設置パターン設定のしかた

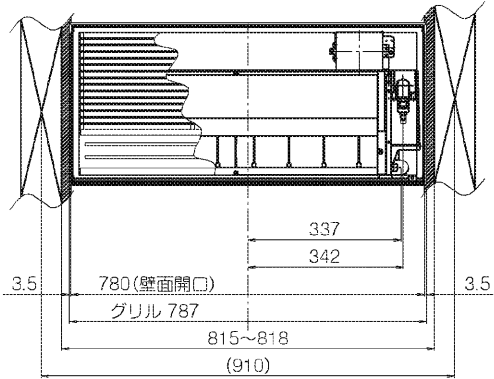
- カバーを外します。(カバーはネジ1本で固定されています。)
- カバーを戻すときは下図のツメを先に引っかけてください。
- SW5の1、2、4をOFFに設定します。



# 室内ユニットの据付け①<パターンB>

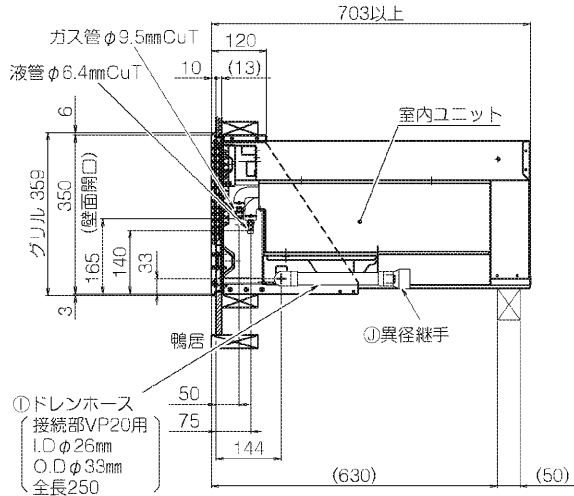
## 1 冷媒・ドレン配管の準備

※各設置パターンに応じて、本体を設置する前にあらかじめ、冷媒配管・ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。



(単位: mm)

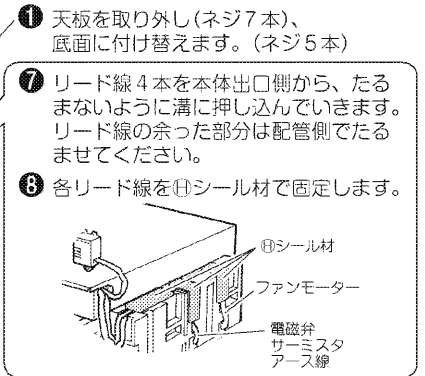
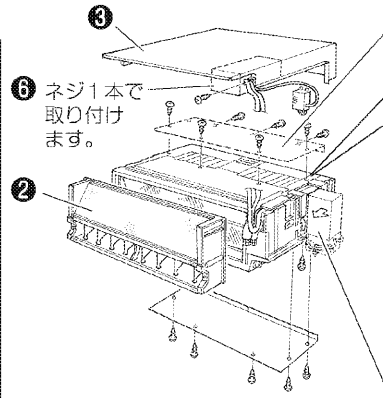
☒ 支柱: 現地調達品  
( ) 寸法: 参考寸法



## 2 本体据付け前の準備

※各別売品のくわしい組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書をご覧ください。

作業内容	パターン B
① 天板の付け替え	必要
② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け	
③ 本体吸込チャンバ(別売品)の取付け	
④ 電装品箱の取外し	
⑤ 設置パターンの設定	設定 SW 切換
⑥ 電装品箱の取付け	本体吸込チャンバ内へ
⑦ リード線を本体溝へ収納	必要
⑧ シール材の貼付け	必要
⑨ 受信ユニットの取付け	前面グリルの化粧板へ
⑩ 結束バンドによるリード線固定	不要

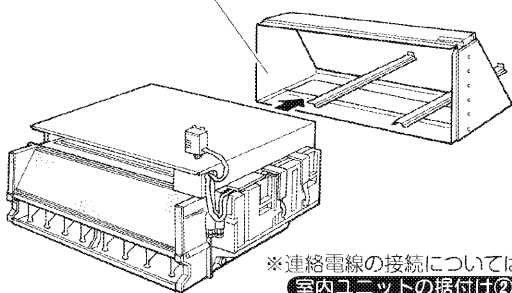


⑨ 受信ユニットの取付方法は、前面グリルの据付取扱説明書をご覧ください。

④ ネジ1本を外し、矢印側へスライドさせます。このとき、リード線を固定している結束バンド(4カ所)を切断して作業してください。(電装品箱に残った結束バンドの切端はきれいに抜き取ってください。)

## 3 室内ユニットの据付け

① 据付枠(別売品)を取り付けます。



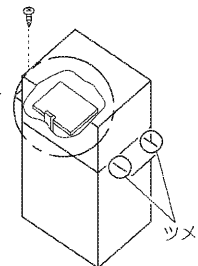
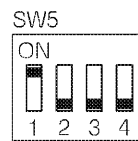
※連絡電線の接続については、**室内ユニットの据付け②** **3 配線工事** をご覧ください。

② 室内ユニットを据付枠に収納します。このとき、据付枠と躯体の間にすき間が生じる場合はシールして、壁裏などからの暖・冷気の侵入を防止してください。(シール材は現地調達品)

●別売の光触媒フィルター(本体吸込チャンバに取付可能)の取付けの詳細は、キットに同梱の取付説明書をご覧ください。

### ⑤ 設置パターン設定のしかた

- カバーを外します。(カバーはネジ1本で固定されています。)
- カバーを戻すときは下図のツメを先に引っかけてください。
- SW5の1をON、2、4をOFFに設定します。

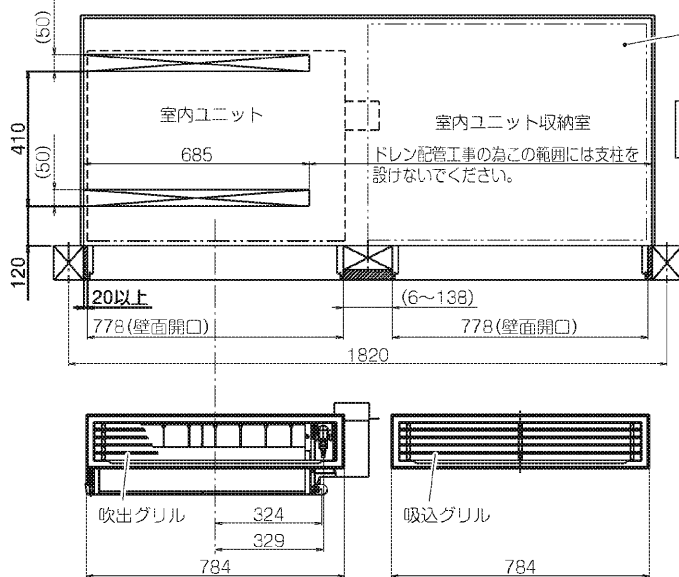


# 室内ユニットの据付け①<パターンC・G>

## 1 冷媒・ドレン配管の準備

※各設置パターンに応じて、本体を設置する前にあらかじめ、冷媒配管・ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。

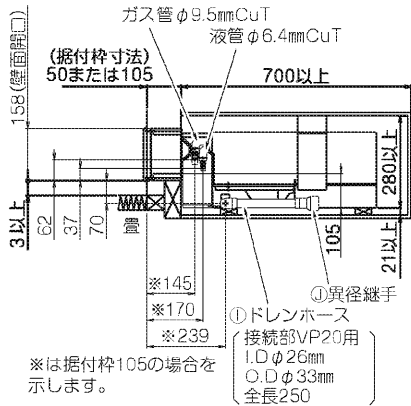
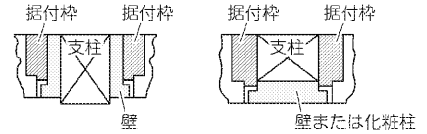
### パターンC (単位: mm)



点検口  
(押入れ底板を上げ蓋方式  
にしてください。)

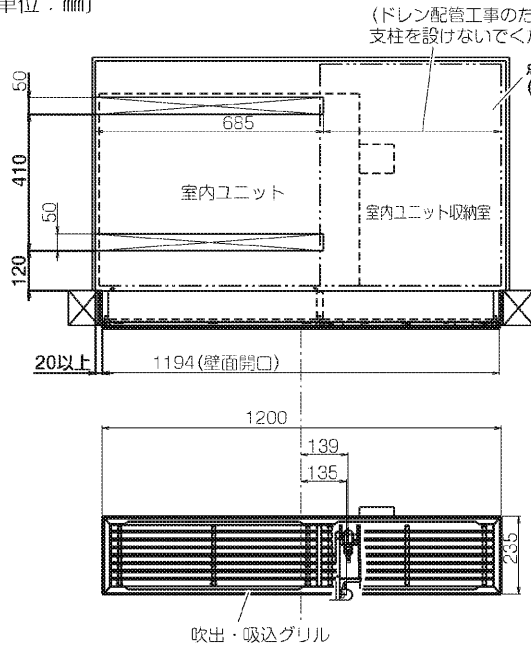
☒ 支柱: 現地調達品  
( ) 寸法: 参考寸法  
太字寸法は厳守してください。

室内ユニット収納室は、外部の空気を吸い込むことのないように、配管貫通部、板の合わせ目などをしっかりふさいでください。



※は据付枠105の場合を示します。

### パターンG (単位: mm)

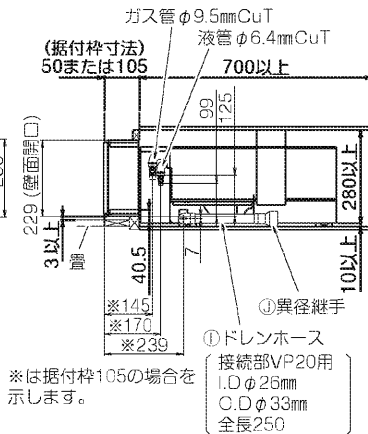


(ドレン配管工事のためこの範囲には  
支柱を設けないでください。)

点検口  
(押入れ底板を上げ蓋  
方式にしてください。)

☒ 支柱: 現地調達品  
( ) 寸法: 参考寸法  
太字寸法は厳守してください。

室内ユニット収納室は、外部の空気を吸い込むことのないように、配管貫通部、板の合わせ目などをしっかりふさいでください。



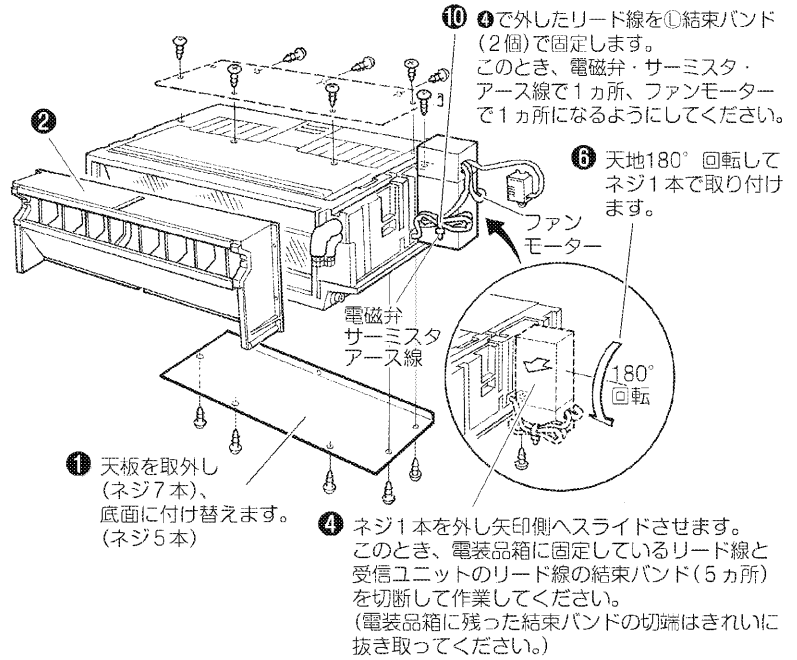
※は据付枠105の場合を示します。



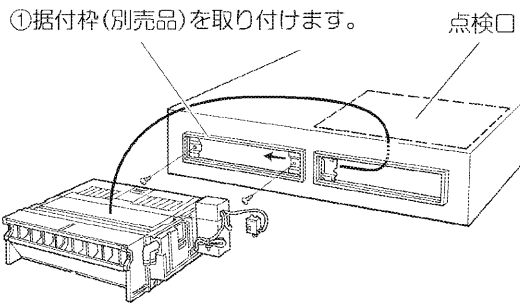
**2 本体据付け前の準備** ※各別売品のくわしい組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書をご覧ください。

作業内容	パターン C・G
① 天板の付け替え	必要
② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け	必要
③ 本体吸込チャンバ(別売品)の取付け	不要
④ 電装品箱の取外し	必要
⑤ 設置パターンの設定	設定SW切換
⑥ 電装品箱の取付け	天地180°回転
⑦ リード線を本体溝へ収納	不要
⑧ シール材の貼付け	不要
⑨ 受信ユニットの取付け	据付枠の化粧板へ
⑩ 結束バンドによるリード線固定	必要

⑨ 受信ユニットの取付方法は、前面グリルの据付取扱説明書をご覧ください。



**3 室内ユニットの据付け**



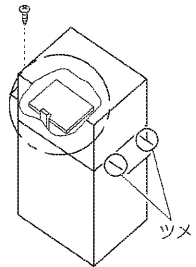
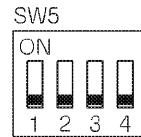
※連絡電線の接続については、**室内ユニットの据付け②** **3 配線工事** をご覧ください。

- ② 室内ユニットを点検口より収納します。
- ③ ドレン配管接続、配管接続、配線工事を行った後、本体固定金具のネジ穴と、本体吹出ダクトのボス穴を合わせて、**④**タッピンネジ2本(M4×12L)で固定します。

※枠イラストはパターンCを示します。パターンGの場合も同様に行ってください。

**5 設置パターン設定のしかた**

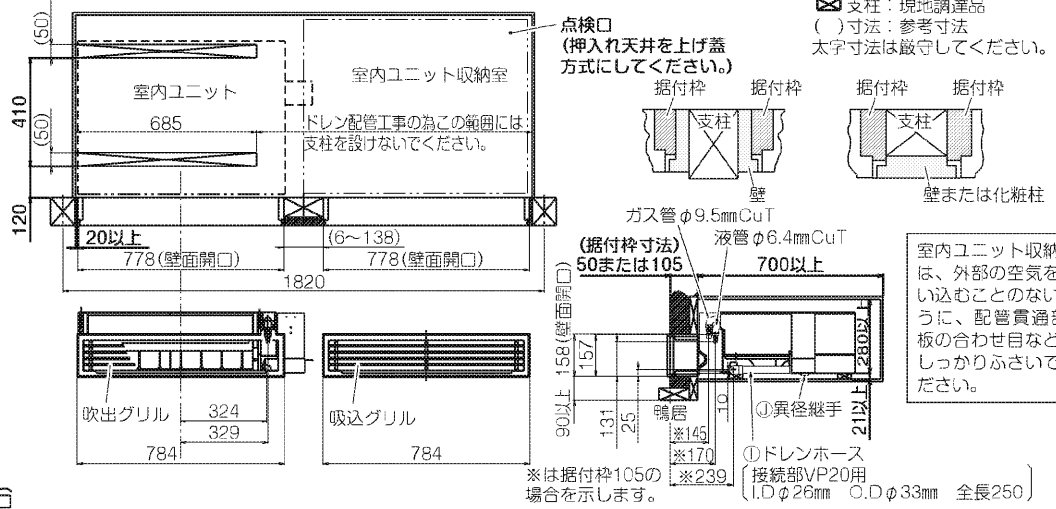
- カバーを外します。(カバーはネジ1本で固定されています。)
- カバーを戻すときは下図のツメを先に引っかけてください。
- SW5の1、2、4をOFFに設定します。



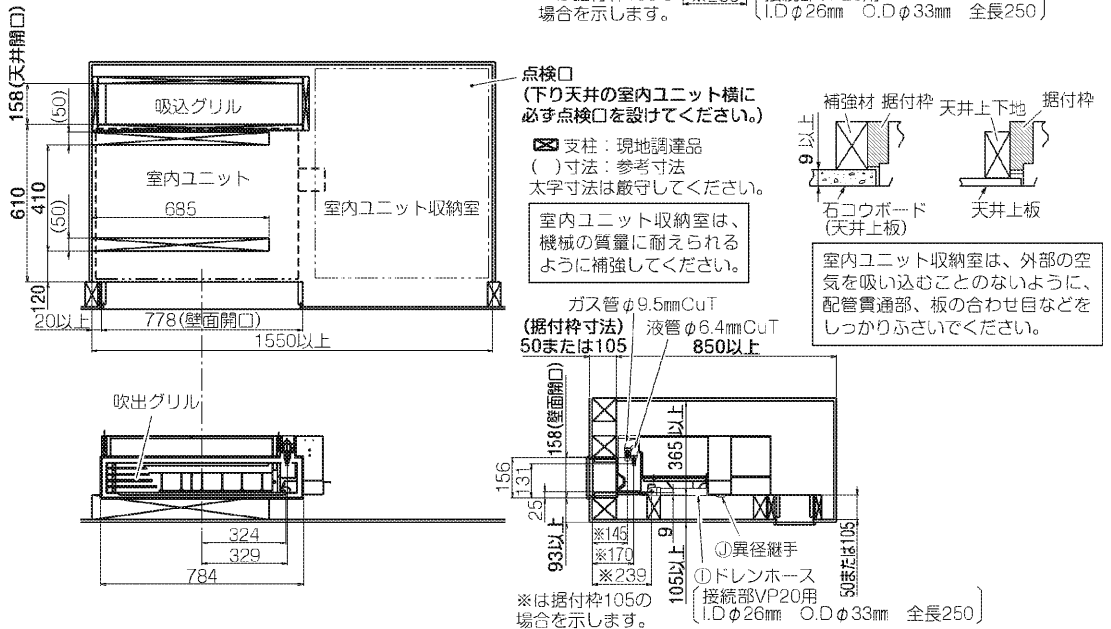
# 室内ユニットの据付け①<パターンD・E・H>

**1 冷媒・ドレン配管の準備** ※各設置パターンに応じて、本体を設置する前にあらかじめ、冷媒配管・ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。

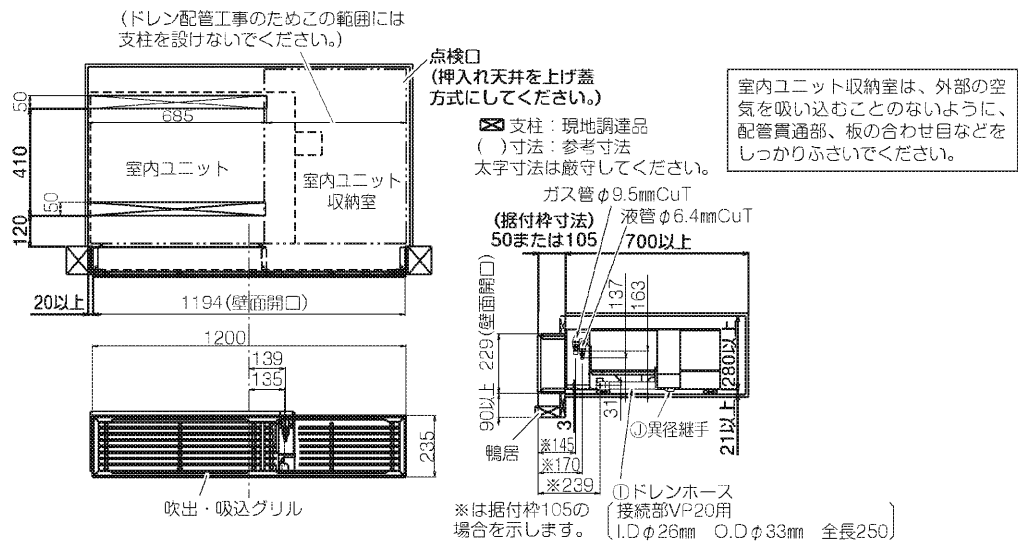
**パターンD**  
(単位：mm)



**パターンE**  
(単位：mm)

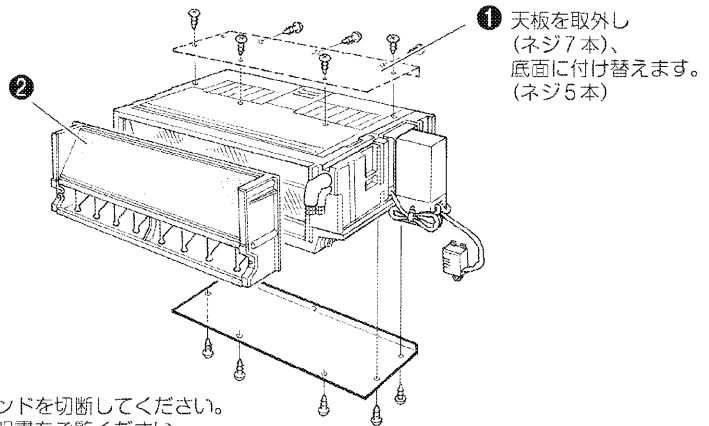


**パターンH**  
(単位：mm)



**2 本体据付け前の準備** ※各別売品のくわしい組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書をご覧ください。

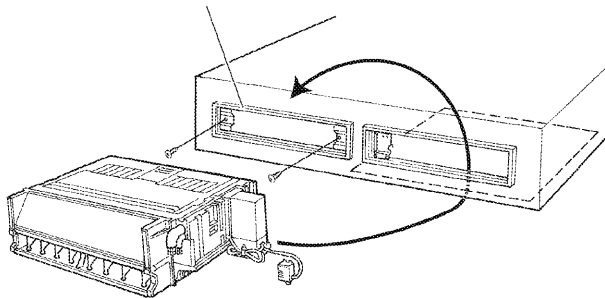
作業内容	パターン D・E・H
① 天板の付け替え	必要
② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け	
③ 本体吸込チャンパ(別売品)の取付け	不要
④ 電装品箱の取外し	
⑤ 設置パターンの設定	設定SW切換
⑥ 電装品箱の取付け	不要
⑦ リード線を本体溝へ収納	
⑧ シール材の貼付け	
⑨ 受信ユニットの取付け	据付枠の化粧板へ
⑩ 結束バンドによるリード線固定	不要



⑨ 受信ユニットのリード線を固定している結束バンドを切断してください。くわしい取付方法は、前面グリルの据付取扱説明書をご覧ください。

**3 室内ユニットの据付け**

① 据付枠(別売品)を取り付けます。



※連絡電線の接続については、**室内ユニットの据付け②** **③配線工事** をご覧ください。

② 室内ユニットを点検口より収納します。

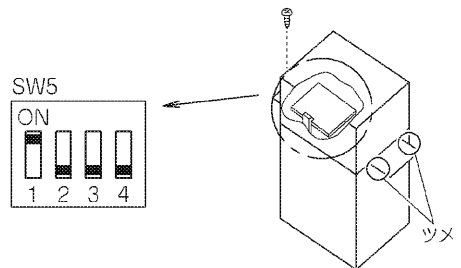
③ ドレン配管接続、配管接続、配線工事を行った後、本体固定金具のネジ穴と、本体吹出ダクトのボス穴を合わせて、**④** タッピンネジ2本(M4×12L)で固定します。

※枠イラストはパターンDを示します。パターンE・Hの場合も同様に行ってください。

**⑤ 設置パターン設定のしかた**

※電装品箱に固定されているリード線の結束バンド(3カ所)をペンチなどで引き抜いてください。(固定された状態ではプリント基板が引き出せません。)

- カバーを外します。(カバーはネジ1本で固定されています。) カバーを戻すときは、下図のツメを先に引っかけてください。
- SW5の1をON、2、4をOFFに設定します。



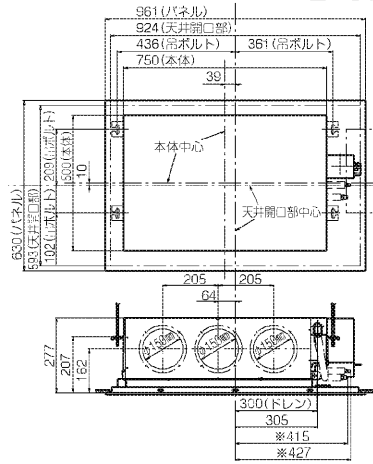
# 室内ユニットの据付け①<パターンJ>

※イラストおよび説明は、本体下吸込の場合です。ダクト吸込の場合は、外形図・取付寸法が異なりますので、背面吸込チャンパ(別売品)の据付取扱説明書をご覧ください。

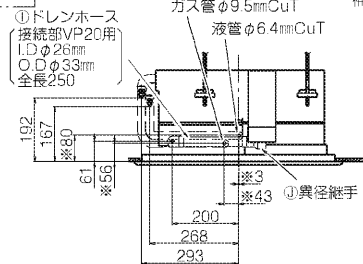
## 1 冷媒・ドレン配管・吊ボルトの準備

※各設置パターンに応じて、本体を設置する前にあらかじめ、冷媒配管・ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。

(単位: mm)



点検口  
(下吸込パネルを取り付けない天井裏設置の場合は必ず室内ユニット横に点検口を設けてください。  
このときメンテナンスのため、本体と天井板との間を300mm以上あけてください。)



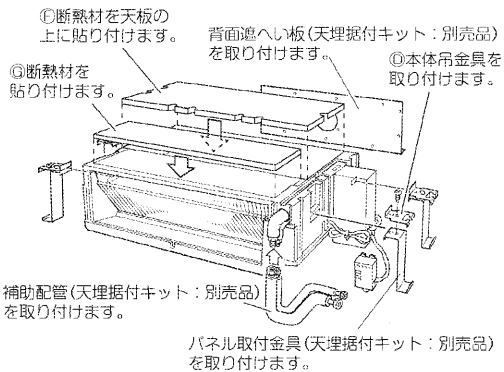
※印は、天埋据付キット(別売品)の補助配管接続時の寸法を示します。

- ドレンアップキット(別売品)の固定は、本体吊ボルトを共用します。キットは室内ユニットより先に吊り下げてください。尚、くわしい組立・取付方法は、ドレンアップキットの据付取扱説明書をご覧ください。

## 2 本体据付け前の準備

※各別売品のくわしい組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書をご覧ください。

- 当パターンでは、①本体吊金具、②断熱材、③断熱材の取付けと天埋据付キット(別売品)の取付けが必要です。



補助配管(天埋据付キット:別売品)を取り付けます。

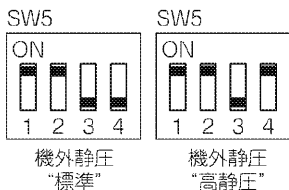
パネル取付金具(天埋据付キット:別売品)を取り付けます。

- 調湿・換気ユニットを接続する場合は、**調湿・換気ユニットを接続する場合**を参照してください。

セパレートの場合のみ

### 設置パターン設定のしかた

- カバーを外します。(カバーはネジ1本で固定されています。)
- SW5の1、2をONに設定します。
- カバーを戻すときは下図のツメを先に引っかけてください。

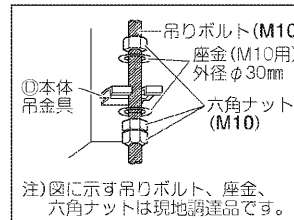


※長ダクト接続時高静圧が必要な場合、SW5の4をONに設定。

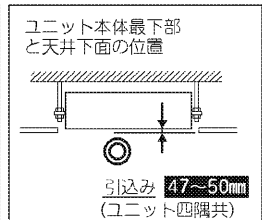
## 3 室内ユニットの吊込

室内ユニットを天井開口より吊ボルトに吊り下げます。

- ①室内ユニットを仮設定してください。
  - 吊り金具に吊りボルトを通し、wナットで固定してください。
- ②ユニット本体の高さの調節をしてください。



注)図に示す吊りボルト、座金、六角ナットは現地調達品です。



- ③ユニット本体が正しい位置にくるように調節してください。
- ④ユニットの水平度を確認してください。
  - ユニットの水平度は、水準器で4角の水平度を確認してください。
  - 本体を据え付けたときの傾きは1°以内におさえてください。
- ⑤上側のナットを締め付けてください。

※連絡電線の接続については、**室内ユニットの据付け②** **3配線工事**をご覧ください。

- 別売の光触媒フィルターの取付けの詳細はキットに同梱の取付説明書をご覧ください。
- 別売の光触媒空清フィルターの取付けの詳細は◎取扱説明書をご覧ください。

# 室内ユニットの据付け②

## 1 | ドレン配管工事

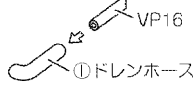
必ず配管工事の前に行ってください。

- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP16(外径22mm)またはVP20(外径26mm)を使用してください。
- ドレン工事は確実に排水するように「**下り勾配**」をつけて配管してください。
- 室内ユニットに①ドレンホース(接続口内径18mm、長さ250mm)が付属されています。ドレンパンのドレン配管接続口より①ドレンホースを使ってドレン配管工事を行ってください。
- 設置パターンにより、ドレン配管接続位置および、排水確認方法が異なりますので、各必須別売品の据付取扱説明書で確認してください。
- ①ドレンホースと塩ビパイプへの接続時、接着テープングを行い確実に接続されているか確認してください。
- 配管工事終了後、ドレン排水がスムーズにできるか確認した後、テープなどで密封してゴミの侵入防止をしてください。

● 室内部のドレン配管は結露防止の為、肉厚10mm以上の断熱材で断熱してください。

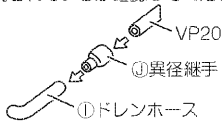
### VP16(外径22mm)の場合

- ①ドレンホースとドレン配管を接続してください。このとき、接着、テーピングを行い確実に接続されているか確認してください。



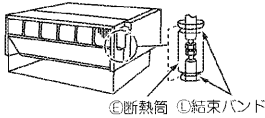
### VP20(外径26mm)の場合

- ①ドレンホースとドレン配管の間に異径継手を接続してください。このとき、接着、テーピングを行い確実に接続されているか確認してください。



## 2 | 接続配管の仕上げ

- 仕上げは、ガス漏れ確認後、行ってください。
- ①断熱筒を適当な長さに切断します。
- ②冷媒配管の接続部分を確実に断熱筒にてシールします。
- ③断熱筒取付け後、上端、下端を④結束バンドで締めます。
- 断熱が不十分ですと、結露滴下の原因となります。特に天井裏の雰囲気は、高温、多湿の場合が多いので、断熱は十分に行ってください。
- 配管が構造物などに接触しないようご注意ください。配管断熱材の変形、つぶれにより結露の原因となります。
- 梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(室内)相対湿度が80%を超えるとされる場合は、断熱材の外表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。



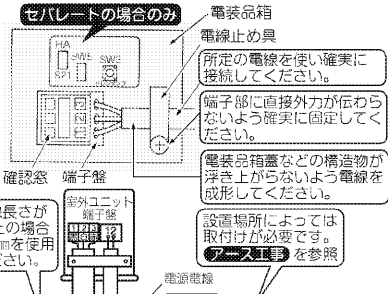
## 3 | 配線工事

### 警告

- 据付工事は、必ず電源を切って行ってください。電源を入れたまま電気部品に触れると、感電の原因になります。
- 配線の途中接続、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしないでください。発熱、感電、火災の原因となります。
- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まないでください。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください。)
- 発熱・火災の原因となります。
- 設置場所によっては、漏電しゃ断器の取付けが必要です。漏電しゃ断器は通常タイプをご使用ください。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)
- 電気工事は、電気工士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」内線規程に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、火災、感電の原因になります。

- ①電線の被覆むきを行います。(必ず15mm)
- ②電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥に当たるまで確実に差し込みます。
- ③確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめます。
- ④電線を引っ張り、抜けないことを確かめたあと、電線止め具で電線を固定します。

能力帯 (kW)	電源電線 最大ごう長(m)	
	φ1.6mm	φ2.0mm
2.8	14	22
3.6	14	22
4.0	11	17
5.0	9	15



- 電源電線の最大ごう長は表に合わせ、電気設備技術基準および内線規程に従って施工してください。
- システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 室内アース工事、HAシステムとの接続、室内ユニットを2台設置される場合は各々「アース工事」、「HAシステムと接続する場合」、「同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合」を参照してください。

# 室外ユニットの据付け①

- システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

## 1 | 室外ユニットの据付け

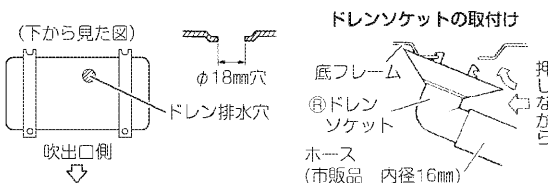
### 注意

室外ユニットは、小動物(虫やカエルなど)のすみかになるような場所には設置しないでください。(例えば、落ち葉の多い所など)小動物が侵入し発煙・発火の原因になることがあります。また、侵入することを減らすために「置台」を必ず使用し、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

- 室外ユニットの据付けは、「据付場所の選定」、「室内外ユニット据付図」を参照してください。
- ドレン処理が必要な場合、下記要領でドレン工事を行ってください。

### ドレン工事

- ドレン排水するときは、⑧ドレンソケットを使用してください。
- 排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に厚さ30mm以上の間座を入れてください。
- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にしてください。(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、暖房効果が損なわれることがあります。)



## 2 | 冷媒配管の接続

- 年数の経過によるフレアナットの腐食を防止するため、フレアナットは本体付属のものをご使用ください。
- フレアナットの割れ防止、およびガス漏れ防止のため締付け時はトルクレンチをご使用ください。
- ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油を塗ってください。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。(冷凍機油はR410Aのものをご使用ください。)
- 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回しで3~4回転ねじ込み、その後所定のトルクでしっかりと締め付けます。

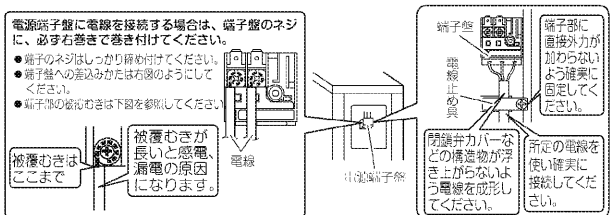
フレアナット締付トルク		弁芯た締付トルク	サービスポートキャップ締付トルク
ガス配(配管径9.5mm)	液配(配管径8.4mm)	21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)	10.8~14.7N・m (110~150kgf・cm)
32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm)	14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm)		

## 3 | エアバージとガス漏れ確認

- 配管工事が終わったらエアバージとガス漏れ確認が必要です。室外ユニットの据付け②を参照してください。

## 4 | 配線工事

- 連絡電線の取付けは「室内ユニットの据付け②」3「配線工事」に準じます。



- 室外アース工事は、「アース工事」を参照してください。

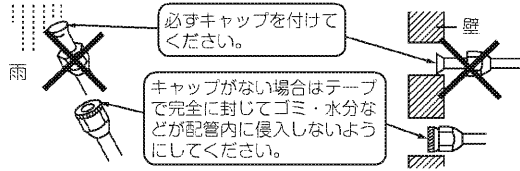
## 5 | 試運転

- 正しく据え付け出来たか試運転を行い確認してください。
- 確認項目をチェックしてください。「試運転と確認」を参照してください。

# 室外ユニットの据付け②

## 冷媒配管工事について

- 配管内にゴミ・水分を入れないでください。
- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。



## 配管の選定と断熱

- 配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。

### ■市販の銅管使用の場合

仕様C1220T-O(JIS H3300) 付着油量40mg/10m以下

### ■断熱材材質：発泡ポリエチレンフォーム

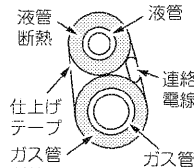
熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)

(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになりますからそれに耐えるものを使用願います。)

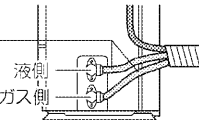
- 液管、ガス管共必ず断熱してください。断熱寸法は下記に従ってください。

ガス管	液管	ガス管断熱	液管断熱
外径9.5mm	外径6.4mm	内径12~15mm	内径8~10mm
肉厚0.8mm	肉厚0.8mm	肉厚8~10mm	肉厚8~10mm
曲げ半径30mm以上	曲げ半径30mm以上	-	-

- ガス管、液管は分離し、各々別に断熱してください。
- 液管、ガス管を一体テーピング仕上げする場合は、各々液管、ガス管の分離断熱を十分に行ってから、仕上げをしてください。

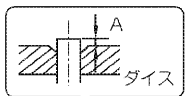


閉鎖弁の結露水が断熱材と配管のすき間から室内ユニット側に伝わるおそれがある場合は、断熱材端面をシールしてください。



## フレア加工について

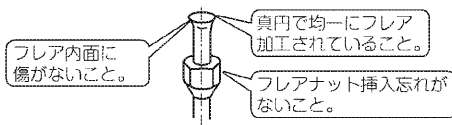
- ①パイプカッターで配管を切断します。
- ②切粉や異物が配管内に入らないよう、切断面を下にしてバリ取りを行います。
- ③フレアナットを配管に挿入します。
- ④フレア加工を行います。



切断面は正しく直角にバリ取りを行ってください。

	R410A用フレアツール	従来のフレアツール	
	クラッチ式	クラッチ式(リジット)	ウイングナット式(インベリアル)
A	0~0.5mm	1.0~1.5mm	1.5~2.0mm

- ⑤フレア加工が正しく出来ているかチェックします。



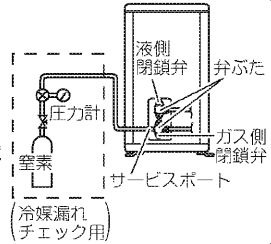
### ⚠警告

フレア加工は正しく確実に行ってください。不備があると、冷媒ガスが漏れる原因になります。

## 気密試験方法

気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。

- 室外ユニット閉鎖弁は全閉のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認してください。気密試験は、高圧部の設計圧力まで昇圧して行ってください。(4.17MPa)
- 気密試験後は、真空ポンプを使用して窒素を回収してください。



## エアバージとガス漏れ確認

### ⚠警告

- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気をしてください。
- 冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させないでください。
- ガス漏れ確認を必ず行ってください。

## 地球環境保護の観点から、エアバージは、真空ポンプをご使用ください。

- R410A専用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を準備してください。
- 閉鎖弁の弁棒操作に六角レンチ(対辺4mm)を用意してください。
- 冷媒配管の接続部は全てトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付けてください。

①ガス閉鎖弁のサービスポートに、ゲージマニホールドのチャージホース突起側(虫ピンを押し側)を接続します。

②ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開、高圧側バルブ(Hi)を全閉にします。(高圧バルブは以降操作しません。)

③真空引きを行い、連成計が-0.1MPa(-760mmHg)になっていることを確認します。※1

④ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にし、真空ポンプを停止させます。(1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。)\*2

⑤液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。

⑥液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行います。ガス漏れ確認は、室内ユニット側はフレア部周辺を、室外ユニットはフレア部周辺、弁棒周辺を石けん水を塗布してチェックします。チェック後は拭き取りをします。

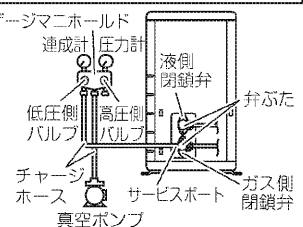
⑦ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にします。(弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。)

⑧液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付けます。

※1 配管長と真空ポンプ運転時間

配管長	15m以内	15mを超える
運転時間	10分以上	15分以上

※2 連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられます。各接続部の点検、およびナットを一旦ゆるめ締め直した後、再度②~④の操作を行ってください。



## ポンプダウン運転について

- 地球環境保護の観点から、移設時にはポンプダウンを行い閉鎖弁をしっかりと閉めてください。
- フロンの回収破壊法により、冷媒フロンの回収が必要です。廃却時にはフロン回収事業者登録業者に依頼してください。

- ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。
- ②強制冷房運転を行います。
- ③5~10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じます。
- ④2~3分後、ガス閉鎖弁を閉じて、強制冷房運転を停止します。

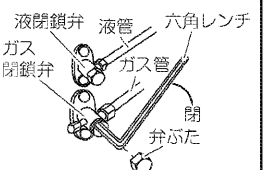
## 強制冷房運転のしかた

### ■室内ユニット応急運転スイッチの場合

- 室内ユニットの応急運転スイッチを5秒以上押し続けます。(運転開始します。)
- 強制冷房運転は約15分で終了し自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは室内ユニットの応急運転スイッチを押ししてください。

### ⚠注意

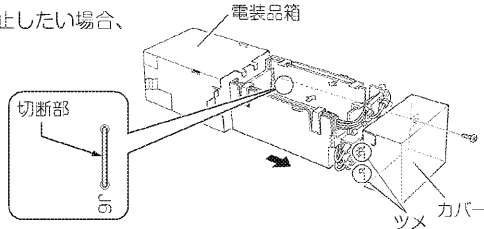
圧縮機の故障の原因になりますので、ポンプダウンは必ず強制冷房運転で行ってください。液閉鎖弁を閉じた後、3分以内にガス閉鎖弁を閉じ、強制冷房運転を停止してください。



# ディップスイッチの設定方法と使いかた

スイッチ番号	SW5-1	SW5-2	SW5-3	SW5-4
設定機能	設置場所切換		リモコン切換	長ダクト接続(高静圧)
ON⇄OFF	天井・天袋⇄地袋	ダクト⇄壁埋	ワイヤード⇄ワイヤレス	入⇄切
使いかた	室内ユニットを設置する場所により設定を行う (設定方法は「室内ユニットの据付け①」をご覧ください。)		薄形リモコンを接続する場合 「ワイヤード」にする	長ダクト接続(高静圧)をする場合 「入」にする。(設定条件については、 商用図記載の静圧特性をご覧ください。)
出荷時の設定	「天井・天袋」	「ダクト」	「ワイヤレス」	「切」

- **システムマルチのみ** 他室から自室の操作を禁止したい場合、J6ジャンパーを切ってください。

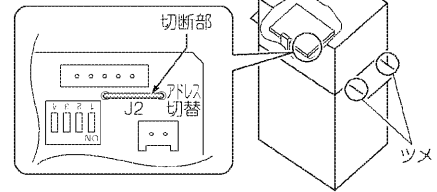
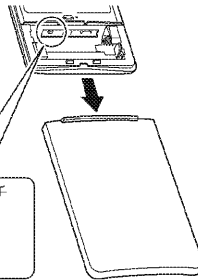
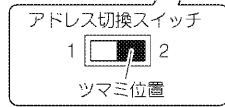


必要なときに

## 同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを「2」に設定変更してください。

- ① リモコンのアドレス切替スイッチを「2」にします。
- ② カバーを外します。(カバーはネジ1本で固定されています。)
- ③ サービスプリント基板にあるアドレスジャンパー(J2)を切断します。



必要なときに

## 薄形リモコンを取り付ける場合

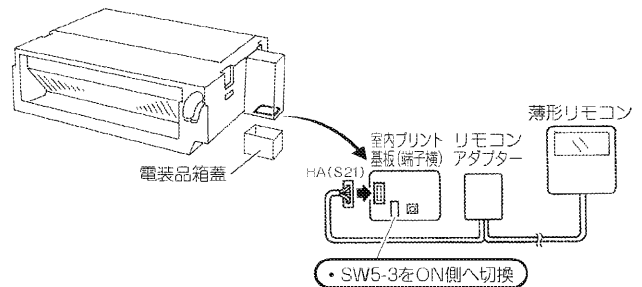
- 薄形リモコン使用時には、ワイヤレスリモコンは使用できません。

- ① 電装品箱蓋を取り外します。(ネジ1本)
- ② 接続コードをHAコネクタ「S21」に挿入します。
- ③ プリント基板のリモコン設定を「ワイヤード」にします。
- ④ リモコンアダプターケースを取り付けます。

⚠ 注意

配線の際には電気ノイズ(外来雑音)を受けないよう、他の電源ラインとは離して配線してください。

- 薄形リモコン(リモコンアダプターは、薄形リモコンに付属)およびリモコンコード(4芯)は別売品です。

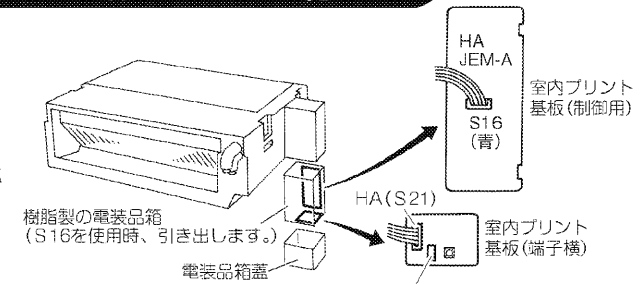


必要なときに

## HAシステムと接続する場合

- ① 電装品箱蓋を取り外します。(ネジ1本)
- ② 遠隔制御プリント基板の接続コードをHAコネクタ「S21」に挿入します。
- ③ 樹脂製の電装品箱を引き出します。
- ④ 室内プリント基板を外します。(ツメ2カ所)
- ⑤ 接続コードをS16のコネクタに接続します。JEM-A規格対応用コネクタはS16(青色)です。

HAの場合  
JEM-A規格対応  
HAの場合



必要な  
ときに

# 調湿・換気ユニットを接続する場合

## マルチ室内ユニットには接続できません

- 調湿・換気ユニットをダクト直結し、運動運転します。  
(調湿・換気ユニット運転時には、冷暖房ユニットのファンは停止させません。)

## エアコン側の準備(本体吊下げ前)

- ①天井据付キット(別売)の背面絶へい板または、背面吸込チャンパ(別売)にニッパーおよびカッターナイフで開口します。
- ②ダクトフランジ(別売)を取り付けます。

## ダクト接続

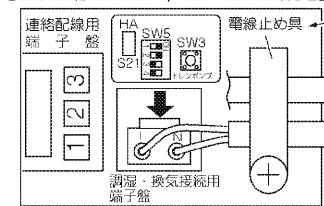
- ③不燃フレキシブルダクト(別売)を用いて、調湿・換気ユニットの室内給気(SA)側を冷暖房ユニットのダクトフランジに接続します。  
このとき、必ず防火ダンパー(別売)を使用してください。

## 注意

ダクト接続の際には、しっかりと差し込み、ダクトテープなどで風が漏れないよう養生してください。

## 連絡配線の接続

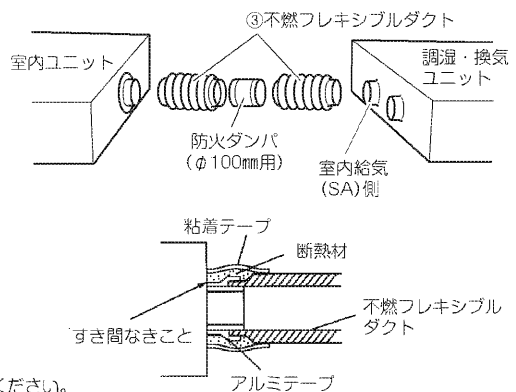
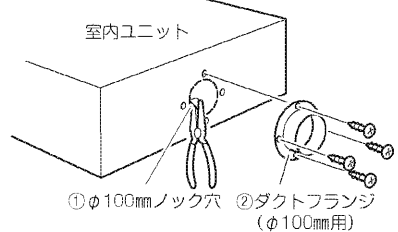
- 連絡配線の取付けは、**室内ユニットの据付け②** **3[配線工事]** に準じます。
- ④連絡配線は、VVVFφ1.6mm×2芯(現地調達品)で行い、配線は端子(L)(N)に接続します。



- 4-1. 端子盤の上部を下に押えながら配線を接続します。  
このとき奥まで確実に入れてください。
- 4-2. 電線止め具に連絡配線と共に、調湿・換気接続用配線を固定します。  
※ 配線を外す場合には、同様に上部を下に押えながら、引き抜いてください。

## 試運転

- ⑤調湿・換気ユニットを運転させると、運動して冷暖房ユニットが運転することを確認してください。  
このとき、受信ユニット表示部「換気」が点灯していることを確認してください。



# アース工事

## 警告

室内または室外ユニットのどちらか一方から、アース工事を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合、感電や火災の原因になることがあります。

## 接地の基準

- 接地の基準は、電源電圧、設置場所により異なります。下表に従って工事を行ってください。

電源	エアコン種類	設置場所		
		水気のある場所	湿気のある場所	乾燥した場所
対地電圧が150V以下	単相3線式200Vの機種	○種接地工事が必要。	○種接地工事が必要。	○種接地工事は法的には除外されていますが、安全のため接地工事をしてください。
対地電圧が150Vを超える	3相200V機種および単相2線式200Vの機種	漏電しゃ断器を取り付け、さらに○種接地工事が必要。		

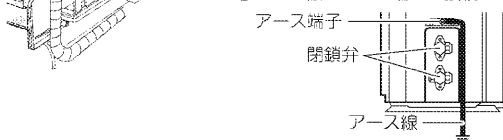
## ○種接地工事について

- 電気工事士の方が行ってください。
- 接地抵抗は必ず100Ω以下にしてください。ただし漏電しゃ断器(定格感度電流が100mA以下で動作時間が0.2秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は500Ω以下にしてください。

## アース工事のしかた

### ■室内アースの場合

- システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
  - ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ①閉鎖弁カバーを外します。
  - ②アース線をアース端子に接続します。



# 試運転と確認

- システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

## 試運転と確認

- ①電源電圧を測定し、仕様通りを確認します。
- ②試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。冷房運転のときはいちばん設定温度の低い温度に、暖房運転のときはいちばん高い温度に合わせます。  
●室温によっては冷房・暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。  
●試運転後には適切な温度(冷房の場合26~28℃、暖房の場合20~22℃)に戻してください。  
●停止後3分間は製品保護のため運転を行いません。
- ③取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく動作することを確認します。
- ④エアコンを運転しないときでもいくら電力を消費しています。据付け後、お客様がすぐ使用されない場合は、ムダな電力消費をさけるためブレーカーを切ってください。

## リモコンでの試運転のしかた

- ①「運転/停止」ボタンを押します。(運転開始します。)
- ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押します。
- ③「運転切換」ボタンを2回押します。  
(「」が表示され試運転モードになります。)
- 試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

## 据付工事後に、必ず確認してください。

**確認項目** チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

チェック項目	不良の場合
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかりと据え付けられていますか。	落下・振動・騒音
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行いましたか(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)。	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしましたか。	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認しましたか。	室外ユニット稼働時のドレンの詰り
<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ボコボコ音)は出ませんか。	別売品ドレンホース用禁止品使用
<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実にしましたか。	漏電時危険
<input type="checkbox"/> 電線は仕様通りですか。	運転不能・焼損
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込、吹出口が障害物でふさがっていませんか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いていますか。	運転不能
<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの受信信は確認しましたか。	運転不能
<input type="checkbox"/> アドレススイッチの設定は確認しましたか。	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

- この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください。)

## タイキン工業株式会社

本社 〒530-8323 大阪府北区中崎西二丁目4番12号 梅田センタービル  
東京支社 〒108-0075 東京都港区港南二丁目18番1号 JR品川イーストビル

3P305835-1 M11B227 (1202) HIT